

見創見 Tuesday

あけましておめでどうい
います。

昨年3月から身近な環境問
題についてできるだけわか
りやすく伝えたいと思い、花
粉、PM2.5、火山噴火、

雷、猛暑、富士山測候所、エ
アロゾルの気候影響、COP
21について書いてきた。八戸
の現状についても勉強する機
会を頂き感謝している。

さて、明日6日は二十四節
気の小寒、寒の入りである。

暦の上では2月4日の立春ま
でを寒といひ、寒さが一番厳
しい時期であるが、今年の冬
はどうかであろうか。年末年始
の様子を見ると暖冬である。

全国各地の主要スキー場の積
雪は少なく、八戸市内でも桔
梗野小学校の花壇には12月と
いうのにコスモス、マリーゴ
ールド、ラベンダーが咲いて
いるとホームページで拝見し
た。

気象庁によると、暖冬とは
12月2月までの平均気温が平
年(1981~2010年ま
での30年の平均)より0.5
度以上高い冬をいう。八戸の
12月の日平均気温は3.1度
で平年より1.3度高い。東
京の12月の日平均気温も9.
3度で平年より1.7度高

要因は温暖化対策急げ

い。北日本太平洋(北海道、
東北地方の太平洋側)の12月
が1.5度高く、東日本太平
洋側は2.0度高かった。15
年度の冬が暖冬となるのは間
違いないだろう。

暖冬の原因として、エルニ
ニョ現象が上げられる。エ
ルニニョ現象とは太平洋赤
道域の東風(貿易風)が弱いた
めに赤道東部のペルー沖の海
面水温が高くなる現象であ
る。正確には監視海域の海面
水温の基準値より0.5度以
上高い月が6カ月以上続いた
状態をいう。14年夏に発生し
た現象は現在も続いており、
昨年11月には基準値より2.
9度も高くスーパーエルニ
ニョ現象と呼ばれている。

この南の海の現象が気象へ
も影響するのである。貿易風
が弱いと赤道西部のフィリ
ピン、インドネシア海域の海面
水温が相対的に低くなり、そ
の海域の対流活動が例年より
弱まる。それが日本付近の気
圧配置にも影響し、西高東低
が弱くなって寒冷な北西季節
風が弱まり、日本全般に暖か

三浦 和彦

東京理科大学教授



みうら・かずひこ
1955年八戸市生まれ。東京理科大学
大学院修士課程修了。
日本エアロゾル学会
副会長、NPO法人
富士山測候所を
活用する会事務局長。
東京都在住。

も影響するのである。貿易風
が弱いと赤道西部のフィリ
ピン、インドネシア海域の海面
水温が相対的に低くなり、そ
の海域の対流活動が例年より
弱まる。それが日本付近の気
圧配置にも影響し、西高東低
が弱くなって寒冷な北西季節
風が弱まり、日本全般に暖か

く日本海側で晴れが多く太平
洋側で曇りや雨雪が多い冬と
なる傾向がある。
ではスーパーエルニニョ
現象はなぜ起こったか。その
原因の一つとして、地球温暖
化が上げられる。気象庁によ
る12月21日の発表によると、
15年の世界の年平均気温(速
報値)は平年より0.40度
高く、1891年の統計開始
以来、最も高い値となる見込
みである。また、2015年
の日本の年平均気温(速報
値)も平年より0.63度高
く、1898年の統計開始以
来、4番目に高い値となる見
込みである。
昨年12月12日、COP21は
2020年以降の新たな温暖
化対策の法的枠組みとなる
「パリ協定」を採択した。史
上初めて、196カ国・地域
が温室効果ガスの削減に参加
する枠組みが誕生した。
すべての国に削減目標の作
成と報告を義務づけ、5年ご
とに見直す仕組みである。産
業革命前からの気温上昇を
1.5度未満に収まるよう努
力する。そして、今世紀後半
に、温室効果ガスの排出と吸
収を均衡させることを目標と
している。

二大排出国の米国や中国を
含むすべての国が参加する合
意となったことは、とても喜
ばしいことである。しかし、日
本は温室効果ガスの最大の発
生源である石炭火力発電と、
まだ安全性が確認されていな
い原子力発電に頼ろうとして
いる。いろいろ難しい問題を
含んではいけるが、再生可能エ
ネルギーの開発促進と省エネ
対策も忘れてはならない。